

2021年（令和三年）

1月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

1/7～1/13のNYMEX・WTI先物市場は、50.83～53.21ドルの範囲で推移した。

1月14日は、この日の中国税関当局の2020年原油輸入量前年比7.3%増加の発表、昨日の米国原油在庫の取り崩し報告など、石油需給緩和感が後退し、反発した。2月限の終値は前日比0.66ドル高の53.57ドル。

週末15日は、バイデン米次期政権から2兆ドル規模の追加経済対策が発表されたものの、米国の新規失業保険申請の増加、12月の米国小売価格の3か月連続マイナスの発表、さらに、中国における新型コロナの感染再拡大の報道など、経済先行きへの懸念から、反落した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比12基増の287基と8週連続の増加となった。2月限の終値は前日比1.21ドル安の52.36ドル。

18日は、キング牧師生誕記念日のため休場。

連休明け19日は、米国追加経済対策への期待、この日のイェレン次期財務長官の当面は財政出動による経済回復に注力するとの議会証言への好感から、反発した。国際エネルギー機関(IEA)は1月石油市場報告で、2021年の世界石油需要を後半の回復が期待されるとしつつも、9160万b/dと前月見通しを30万b/d下方修正した。2月限の終値は前日比0.62ドル高の52.98ドル。

20日は、バイデン新政権へのスムーズな政権移行と追加経済対策への期待で、続伸した。ただ、新型コロナの感染再拡大の動きなどで上値は重かった。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告は21日の発表予定。2月限の終値は前日比0.26ドル高の53.24ドル。

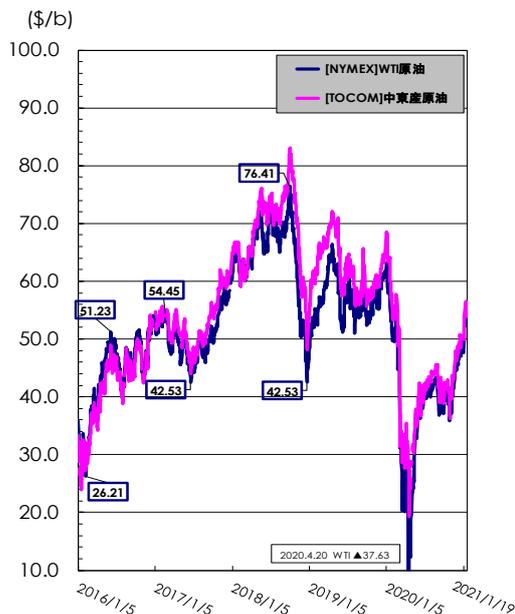
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は1月7日～13日の間54.40～56.90ドルの範囲で推移した。1月14日55.40ドル、15日55.20ドル、18日54.30ドル、19日54.70ドル、20日56.00ドルと推移した。

為替は1月7日～13日の間102.99～104.23円の範囲で推移した。1月14日103.95円、15日103.84円、18日103.83円、19日103.74円、20日103.93円で推移した。

財務省が1月21日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は、29,378円/klで、前旬比405円高、ドル建て44.96ドルで前旬比0.75ドル高、為替レートは1ドル/103.90円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、12月の原油輸入平均CIF価格は、29,113円/klで、前月比1,279円高、ドル建て44.45ドルで前月比2.18ドル高、為替レートは1ドル/104.13円。

そのような中で、1月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週(1月12日)比1.1円の値上がり、軽油も同1.1円の値上がり、灯油は15円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。この週(1月第3週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比0.5～1.0円の引き上げに分かれた。

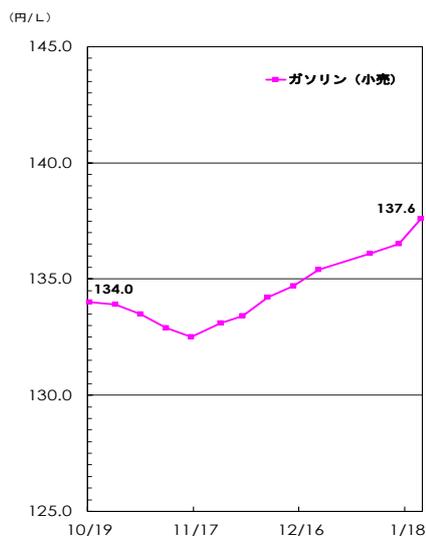
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/10 ~ 1/16	2,999 ▼ -42	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.9 ▼ -1.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/16	10,902 ▲ 154	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/18	53.88 ▼ -1.25	▼ -10.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/19	52.98 ▲ 0.73	▼ -5.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	44.96 ▲ 0.75	▼ -22.28
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,378 ▲ 405	▼ -16,698
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	103.90 ▲ 0.28	▲ 5.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/18	104.83 ▲ 0.40	▲ 6.36



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/10 ~ 1/16	869 ▼ -25	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	790 ▲ 33	▼ -	
	輸出	"	30 ▼ -20	▼ -	
	在庫	1/16	2,084 ▲ 49	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/12 ~ 1/18	49.5 ▲ 1.1	▼ -14.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/12 ~ 1/18	46.9 ▲ 1.7	▼ -11.4
		(TOCOM/中部)	1/18	49.2 ▲ 0.4	▼ -11.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/18	137.6 ▲ 1.1	▼ -14.0	

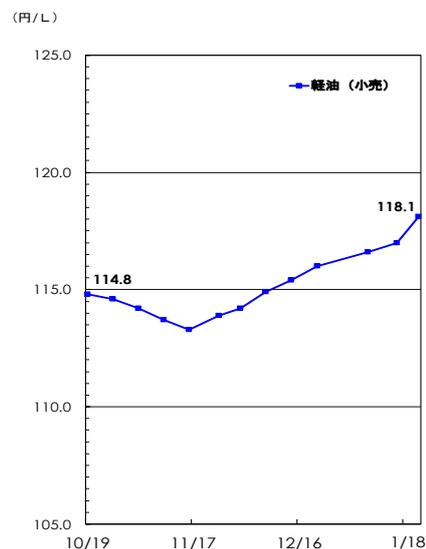
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

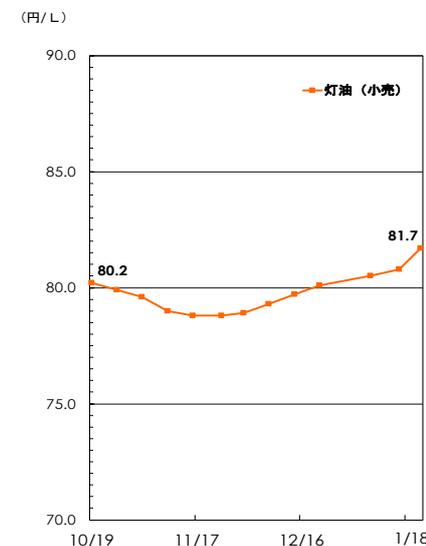
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/10 ~ 1/16	609 ▼ -17	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	591 ▲ 149	▲ -	
	輸出	"	50 ▲ 3	▼ -	
	在庫	1/16	1,823 ▼ -31	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/12 ~ 1/18	52.2 ▲ 1.3	▼ -14.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/12 ~ 1/18	53.6 ▲ 1.5	▼ -14.0
		(TOCOM/中部)	1/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/18	118.1 ▲ 1.1	▼ -13.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/10 ~ 1/16	569 ▲ 151	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	631 ▲ 135	▲ -	
	輸出	"	59 ▲ 35	▲ -	
	在庫	1/16	2,144 ▼ -122	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/12 ~ 1/18	52.0 ▲ 1.2	▼ -13.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/12 ~ 1/18	51.2 ▲ 2.0	▼ -11.2
		(TOCOM/中部)	1/18	52.0 ▲ 0.5	▼ -12.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/18	81.7 ▲ 0.9	▼ -13.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月20日のNYMEXのWTI先物原油は、この日就任式を迎えたバイデン新政権へのスムーズな政権移行と2兆ドル規模の追加経済対策への期待で、続伸した。ただ、新政権によるカナダ・アルバータ州から米国メキシコ湾岸までのキーストーンパイプラインの建設許可撤回への懸念、世界各国での新型コロナウイルスの感染再拡大の動き、外国為替市場でのドル高・ユーロ安の進行による原油先物の割高感などの要因もあり、上値は重かった。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告は、休日の関係で21日午前の発表となったが、原油在庫は取り崩しが予想されている。2月限の終値は前日比0.26ド

ル高の53.24ドル、3月限の終値は同0.33ドル高の53.31ドル。

EIAによると、1月18日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.2セント値上がりの1ガロン2.379ドル(65.8円/㍉)、ディーゼルは同2.6セント値上がりの2.696ドル(74.6円/㍉)となった。ガソリンは8連続の値上がり、ディーゼルは11週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年1月10日～1月16日に休止したトッパー能力は28.6万バレル/日で、前週に対して10.7万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は299.9万klと、前週に比べ4.2万kl減少。前年に対しては49.8万klの減少。トッパー稼働率は77.9%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては11.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.8%減、ジェット/58.6%減、灯油/36.2%増、軽油/2.8%減、A重油/31.7%増、C重油/17.5%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比2.3万kl減)。軽油の輸出は5.0万kl(前週比0.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でC重油が減少、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は79.0万kl(対前週4.4%増)と3週振りに増加した。ジェット11.2万kl(対前週39.1%増)、灯油63.1万kl(対前週27.3%増)、軽油59.1万kl(対前週33.9%増)、A重油26.9万kl(対前週20.2%増)、C重油24.5万kl(対前週2.7%減)。

(単位:千kl)

	今週 (1/10 ~ 1/16)	前週 (1/3 ~ 1/9)	前週比	
ガソリン	790	757	▲ 33	(4%)
ジェット燃料	112	80	▲ 32	(40%)
灯油	631	496	▲ 135	(27%)
軽油	591	442	▲ 149	(34%)
A重油	269	224	▲ 45	(20%)
C重油	245	252	▼ -7	(-3%)
合計	2,638	2,251	▲ 387	(17%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月16日時点の在庫は、ガソリンで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは208.4万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては33.3万kl多い。

灯油は214.4万kl、前週差12.2万kl減。前年に対しては4.0万kl多い。

軽油は182.3万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては19.1万kl多い。

A重油は74.7万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

C重油は185.1万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては1.8万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (1/16)	前週 (1/9)	前週比	
ガソリン	2,084	2,035	▲ 49	(2%)
ジェット燃料	725	806	▼ -81	(-10%)
灯油	2,144	2,266	▼ -122	(-5%)
軽油	1,823	1,854	▼ -31	(-2%)
A重油	747	748	▼ -1	(-0%)
C重油	1,851	1,930	▼ -79	(-4%)
合計	9,374	9,639	▼ -265	(-2.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月12日～18日の指標原油価格は前週(1月5日～11日)比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5～1.0円の引き上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月12日～18日の製品スポット市況は、1月5日～11日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(1/12～1/18)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は1.3円の値上がりだった。直近週(1/12～1/18)において、ガソリンは102～103円台で値上がり後わずかに値下がり、灯油は50～52円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油は50～52円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/12～1/18)に、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(1/12～1/18)に、ガソリンは103～105円台で大きく値上がり後ほぼ横ばい、灯油は49～53円台で大きく値上がり後激しく値下がり、軽油は52～53円台で大きく値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は2.0円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。先物価格は、同期間(1/12～1/18)に、ガソリン99～101円台で値上がり後大きく値下がり、灯油50～52円台で値上がり後大きく値下がり、軽油52～54円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/12～1/18)	前週 (1/5～1/11)	前週比
	レギュラー	49.5	48.4
灯油	52.0	50.8	▲ 1.2
軽油	52.2	50.9	▲ 1.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [期近物/終値] [平均]	今週 (1/12～1/18)	前週 (1/5～1/11)	前週比
	レギュラー	46.9	45.2
灯油	51.2	49.2	▲ 2.0
軽油	53.6	52.1	▲ 1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/12～1/18実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 1.4
灯油	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 1.6
軽油	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.4
A重油	▲ 1.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(1月12日)比1.1円高の137.6円、軽油も同1.1円高の118.1円、灯油は18%ペースで同15円高の1,470円(1%ペースでは81.7円の同0.9円高)。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは42道府県、横ばいはなし、値下がり5都県となった。全国最安値は129.9円の徳島県(同0.2円安)、その次に安かったのは132.3円の埼玉県(前週比0.1円高)、最高値は146.7円の鹿児島県(同0.8円高)だった。最も値上がりしたのは、同2.7円高の香川県(134.3円)、横ばいはなし、最も値下がりしたのは

は、同1.2円安の沖縄県(143.7円)だった。今週(1月12日～18日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(1月21日～27日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5～1.0円の引き上げに分かれた。次回調査時(1月25日)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/18)	前週 (1/12)	前週比	直近高値
レギュラー	137.6	136.5	▲ 1.1	08/8/4 185.1
灯油	81.7	80.8	▲ 0.9	08/8/11 132.1
軽油	118.1	117.0	▲ 1.1	08/8/4 167.4

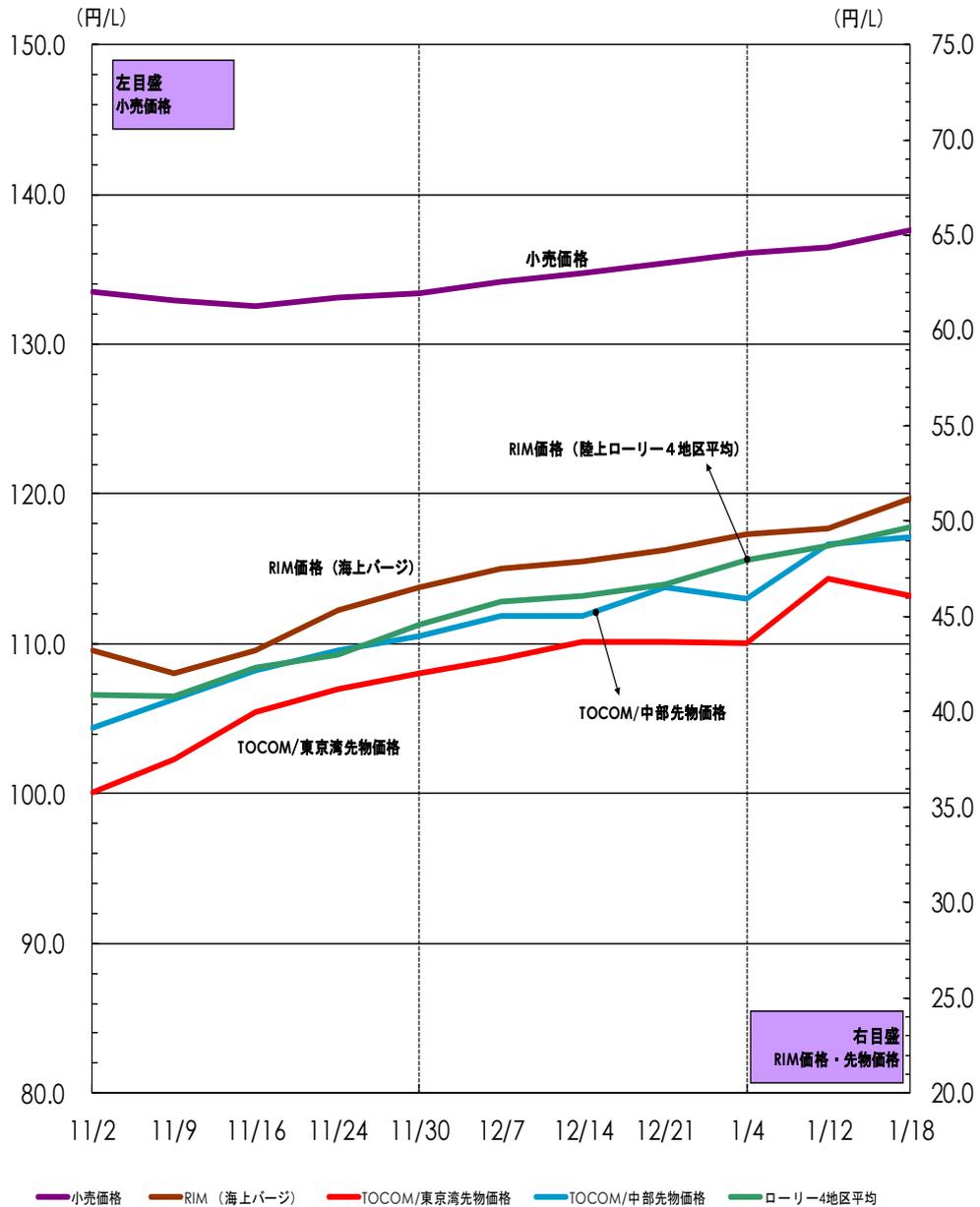
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/11/2 ~ 2021/1/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第29号)の公表は、1/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。